

紙芝居

はだしのゲン 第五卷

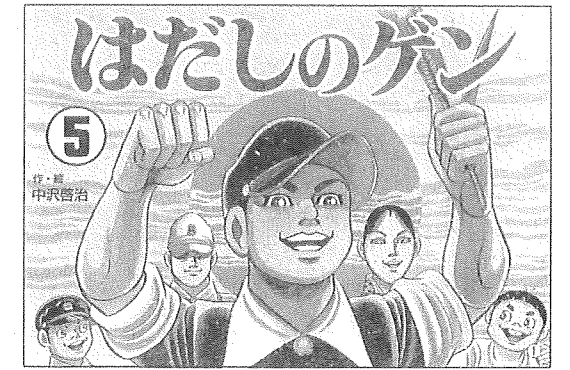
1991年4月発行 (16場面)

発行者 吉元尊則

発行所 株式会社 汐文社

東京都文京区本郷1-26-10  
電話03(3815)8421

印刷・製版 ㈱飛来社



紙芝居

# はだしのゲン

## 第五卷

①

中沢啓治 作・絵

ゲン 「わしやゲンじゃ。」

元気のゲンじゃ。

どんなに辛いことがあっても  
負けんぞ。

カツパ、カツパ、へのカツパ。

わしやゲンじゃ。

元気のゲンじゃ」

……ゆっくりぬく……

〔演出ノート〕

明るく、元気よく



②

原爆をうけた政二せいじの看病けんびをして、お金をかせいだゲンと隆太りゅうたは、ミルクをもとめて闇市の中を走りまわっていました。

商人

「さあさあ、アメリカ直輸入のミルクじゃ。はよう買わんとなくなるぞ。一個十円、十円じゃ」

大きな声で

隆太

「あんちゃん、あったで！ 見つけたで！」

ゲン

「オオツッ！」

ゲンと隆太は、その商人にかけ寄りしました。

ゲン

「おっさん、そのミルクぜんぶわしにくれ！」

商人

「なにっ、おまえら金を持つとるんか。わしをからかうと承知せんぞ」

隆太

「バカタレ、わしらは金持ちなんじや」

ゲン

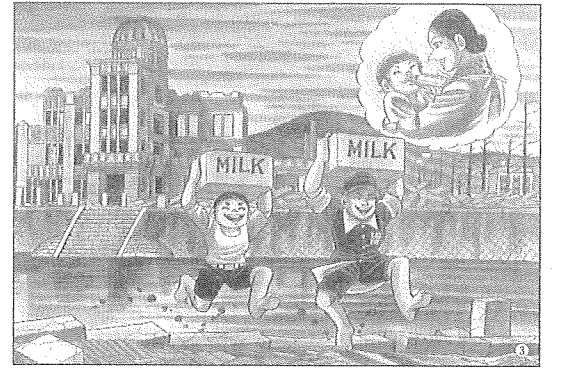
「ほうじゃ、このとおり百円じゃ。にせ金じゃないぞ、はよう見る。はようわしらにミルクをくれや」

商人

「ようし、わかった。持っていけえ」

威勢よく

……ぬく……



③

ゲン 「うわーい、友子の<sup>ともこ</sup>ミルクじゃく。待

つとれ、腹いっぱいミルクを飲ましてやるぞ」

隆太

「うわーい、友子ちゃん、ミルクを手に入れたで。喜べ、喜べ」

友子がおいしそうにミルクを飲む姿や、お母さんの喜ぶ顔が早く見たくて、ゲンと隆太は家に向かって夢中で走ります。

……ぬく……

大声でうれしそうに



4

ゲン 「お母ちゃん、ただいまー。

パンパカパーン、パンパンパン、パンパカパーン。

おどけた調子で

喜んでくれよお母ちゃん、このとおりミルクを手に入れてきたよ」

隆太

「おばちゃん、はよう友子ちゃんに飲ませてやりんさいよ」

ところが、お母さんは二人の声が聞こえないかのように友子を抱きしめたまま、子守唄を歌いつづけています。

君江

「ねくんねんころりよ おころりよ  
友子ちゃんはい子だ ねんねしな」

悲しそうな声で

ゲン

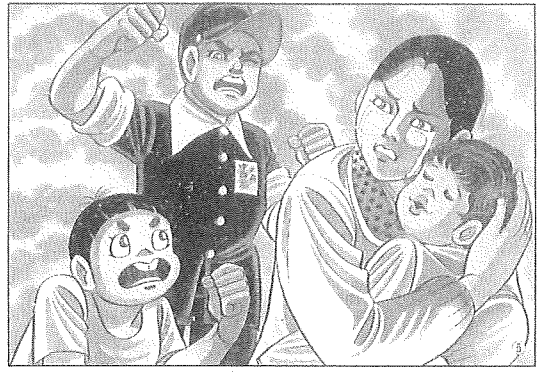
「お母ちゃん、どうしたんじゃ。うれしゅうないんか、喜んでくれんのか」

隆太

「ほうよ。どうしたんじゃ、おばちゃん」

お母さんは泣きながらゲンと隆太をみつめました。二人はびっくりしました。

……ゆっくりぬく……



⑤

君江

「ゲン、隆太、遅かった……遅かったよ……友子はさつき死んでしもうたよ」

悲しそうに

ゲン

「エエツ、そ、そんなばかなっ！」

おどろいたように

君江

「友子は三カ月の短い命じゃったね……友子、お母ちゃん、お前を助けるために一生懸命がんばったんじゃないけどだめじゃった……ごめんね……ごめんね友子」

泣き声で

ゲン

「うそじゃ！ うそじゃ！ 友子が死んだなんてうそじゃ！ お母ちゃん、わしをだますな！」

叫ぶように

隆太

「ほうよ。おばちゃんうそじゃろう。うそをつくどエンマ様に舌抜かれるんで」

泣き声で

君江

「ねんねんころりよ おころりよ  
友子ちゃんはよいこだ ねんねしな」

お母さんは悲しみをこらえて子守唄を歌いつづけます。

……ぬく……